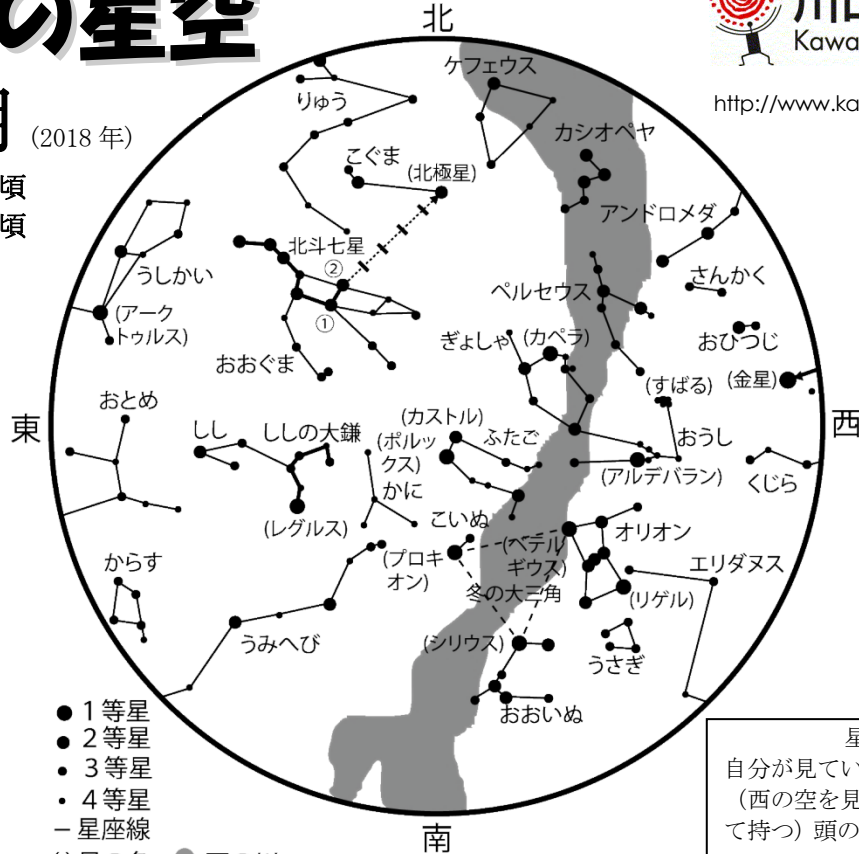


今月の星空

3月 (2018年)

上旬 21 時頃
下旬 20 時頃



月 齢	○ 満月 2 日、● 下弦 9 日、● 新月 17 日、● 上弦 25 日、○ 満月 31 日
惑星情報	水星 夕方 西 (みずがめ座 → うお座 -1 → 1 等級) (2~22 日) 金星 夕方 西 (みずがめ座 → うお座 → おひつじ座 -4 等級) 火星 明け方 南 (へびつかい座 → いて座 1 → 0 等級) 木星 明け方 南 → 南西 (てんびん座 -2 等級) 土星 明け方 南東 → 南 (いて座 0 等級)

☆ 水星が観望好機 (3月中旬)

水星は太陽系の中で一番内側を回る惑星です。そのため、太陽からあまり離れることがなく、見るのが難しい天体です。地動説で知られる天文学者のコペルニクスもこの惑星を生涯見ることがなかったという言い伝えがあるほどです。

その水星が、16日に太陽から東側に最も離れて見える「東方最大離角」を迎え、日没直後の西の空で見つけやすくなります。右図のように、12日~22日まで午後6時の高度が14~15度ほどあります。この期間の明るさは-1 ~ 1等級ですが、空はまだ薄明るいいため、探すのは思いのほか難しいかもしれません。非常に明るい金星が近くにあるので、それを目印に探してみてください。

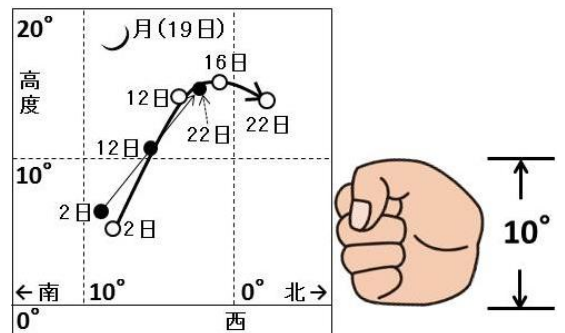


図 水星 (○) と金星 (●) の位置
(3月2日から22日の午後6時00分)

※金星から水星を探すコツ

腕をのばして、握りこぶしを縦にしたときの幅が約10度です。12日~22日には、水星は金星から握りこぶし0.5個分(5度)ほど離れていることになります。

☆ 北斗七星と北極星

北東の空に見られる「おおぐま座」には「ひしゃく」の形で有名な北斗七星があります。上の星図のように「ひしゃく」の先端にある2つの星(①と②)の間隔を5倍延ばすと北極星が見つかります。いつも真北にあるこの星を、日本では「子の星(ねのほし)」と呼んでいました。それは北の方角を、十二支の子(ね)としていたからです。